

## 大戸沢岳山スキー報告

(山 域) 南会津

(コース) 鈴木(卓)さん⇒滝本(同乗)⇒鶴田さん(乗換)⇒菊池さん(同乗)⇒池上さん(同乗)⇒渡辺(俊)さん合流(上河内 SA)⇒登山口(下大戸沢スノーシェイド出口の路肩)⇒大戸沢岳中腹(1620m 付近)⇒登山口⇒木賊温泉⇒帰路

(日 時) 平成 29 年 4 月 8 日 (土)

(天 候) 晴天

(参加者) CL: 渡辺(俊)、SL: 菊池、鶴田、会員外(鈴木(卓)、池上(和))、記録: 滝本

(山行タイム) 千葉 3:00、上河内 SA 5:10 (35 分休憩)、登山開始(840m 地点) 8:25、1,386m 地点 11:00、1,553m 付近 11:55、折返し地点(1,620m 付近) 12:13、登山口 14:10、帰路



(山行報告)

週末の悪天予想で、当初計画していた 1 泊 2 日の蓮華温泉を中止して大戸沢岳に決定。前日に大戸沢岳または西大巔に行くことに決めたが、出発時点で雨が降っていてテンションが大幅にダウンし、温泉めぐりでもしようかと話していました。渡辺さんとは上河内 SA で合流しましたが、ほとんど中止の気分でした。しかし、雨雲レーダーや「てんきとくらす」では良くなるようなので気を持ち直して出発。徐々に薄日が差し、登山開始時には晴天になっていました。

三岩岳の入山口には既に 5~6 台が駐車していたが、大戸沢岳入山地点(下大戸沢スノーシェイドを出てすぐの場所)には我々がトップ、結局単独者一人に追い抜かれただけで、わがチーム 5 名と計 6 名が入山したのみであった。今回は雪崩れ危険時期のため、勿論尾根ルートのパistonです。気温が高く、日が差していることから最初から薄着になって出発。

|   |  |
|---|--|
|  |  |
| 沢沿いから尾根に向かいます   | かなり急登になってきました  |

最初は沢沿いで、途中から尾根に向かって登っていく。しかし急な細尾根で、鶴田さんと鈴木さんがバランスを崩して滑落しそうになったので 950m 付近から 1,100m 付近までつば足に切り替えた。後続の単独者は右側の尾根を進んだが、これが正解のようで、下りはそのルートを滑って降りた。

今回も、シールでの歩き方、歩行ルートを選び方、下りルートの観察、天候や時間帯による雪面の変化、危険個所の見極めなど、菊池先生の講習をまじえながら登って行きます。

晴天で風もなく急登が続くため大量の汗をかいてしまうので、休憩時には水分やエネルギーを十分に補給し、急登を切り返しながらか進んで行きました。1,386m の平坦な台地では、大戸沢岳の真っ白な山頂が見えますがまだまだ先です。三岩岳山頂から雪庇のある稜線とその下の急な大斜面、全層雪崩跡も見

られます。ブナ林もまばらになり、下りの滑走も楽しめそうな雰囲気が出てきます。

|   |  |
|---|--|
|  |  |
| 大戸沢岳山頂  | 三岩岳山頂と稜線   |

大戸沢山頂はまだまだ先ですが、メンバーの年齢、下りの体力、帰りの時間、温泉に入る時間も考慮して、1620m 付近の平坦なところで休憩して滑走することにしました。山頂直下の斜面はとても楽しめそうですが、山頂は次回のお楽しみにとっておくことにしました。



|   |  |
|---|--|
|  |  |
| <p>これから滑降です</p>   | <p>気合いだ</p>  |

テレマークが3名、アルパインツツーリングが3名の半々でした。最初は比較的緩やかで木もまばらで、ストップスノー（妖怪足（板？）つかみ）気味でも滑りやすかったのですが、徐々に斜面が急になり、尾根が細り、木が密集気味になって疲れも出てきてうまくターンが出来ません。菊池先生からは、いろいろアドバイスを受けながらなんとか滑って降りて行きました。最後の方はほとんど横滑りでずると滑ったような感じです。往路のつぼ足で登ったところは北側の尾根を通過して回避しました。

滑り下りた後は次のお楽しみの木賊（とくさ）温泉に行きました。池上さんは内湯（300円）に入り、男性5人は混浴の露天風呂（200円）に入りました。

|   |  |
|---|--|
|   |   |
| <p>出発前の様子</p>   | <p>木賊温泉</p>  |
|  |  |
| <p>テレマークターンその1</p>  | <p>テレマークターンその2</p>   |



